ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.

第89期　報　告　書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

先端の創薬を通じて
人々の健康と明日の医療に貢献する



あすか製薬株式会社

CONTENTS

株主の皆様へ …… 1
営業の概況 …… 2
連結財務諸表 …… 4
業績の概況(連結) …… 6
トピックス …… 7
主要製品 …… 8
株式の概況 …… 9
会社の概要・役員 …… 10

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申しあげます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

ここに第89期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の事業概況をご報告するにあたり、ご挨拶申しあげます。

国内医薬品市場は、高齢化社会を背景とした医療制度の抜本的見直しの中、昨年4月の業界平均5.2%の薬価基準引き下げ実施、後発医薬品の普及拡大等による医療費・薬剤費抑制策の基調が継続し、前期に引き続き厳しい状況で推移しています。当社はこのような情勢に対処するため、領域を絞った新製品開発に経営資源を集中し、強い競争力のあるトップクラスの新薬開発型企業を目指しております。「先端の創薬を通じて、人々の健康と明日の医療に貢献する」ことを経営理念とし、法令遵守、倫理的な経営のもと、「社会に貢献し信頼される会社」として発展していきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願い申しあげます。

平成21年6月

代表取締役社長
山口 隆



営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国に端を発した金融危機が世界の金融資本市場および実体経済に波及し、株式および為替市場の変動、輸出減少、個人消費の減退などにより景気後退が深刻化し、厳しい状況で推移いたしました。

医薬品業界におきましては、少子高齢化の進行が医療保険財政を圧迫するなか、昨年4月に業界平均5.2%の薬価基準引き下げが実施されるとともに、後発医薬品の使用促進等による医療費抑制策の基調は変わらず、市場環境は引き続き厳しい状況のもとに推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、適正な医薬情報活動に取り組み医薬品事業を中心に売上げの確保に努めました結果、薬価改定や主力製品の競争激化の影響はありましたが、新製品として先発医療用医薬品(1品目)、後発医療用医薬品(3品目)および動物用医薬品(2品目)を上市したことにより、売上高は304億2千2百万円(前連結会計年度比0.8%増)と微増収となりました。利益面では、売上構成の変化に伴う売上原価率の増加により、営業利益は10億6千4百万円(前連結会計年度比39.5%減)、経常利益は13億7千7百万円(前連結会計年度比32.6%減)、当期純利益は6億円(前連結会計年度比82.9%減)となりました。

各分野における売上状況につきましては、医薬品分野では消化性潰瘍・胃炎治療剤「アルタット」、前立腺肥大症・癌治療剤「プロスタール」、甲状腺ホルモン剤「チラーヂン」、高脂血症治療剤「リピディル」および「ラミアン」、尿失禁・頻尿治療剤「ミクトノーム」、前立腺肥大症の排尿障害改善剤「リストリーム」、経口避妊剤「アンジュ」および不妊症治療剤「HMG注」等の産婦人科製品、昨年7月に上市いたしました高血圧治療剤「アムロジピン」、メニエール病改善剤「イソソルビド」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「メサラジン」、本年2月に上市いたしました更年期障害治療剤「メノエイドコンビパッチ」ならびにコ・プロモーション製品を中心に販売努力をいたしました結果、売上高は288億8千7百万円(前連結会計年度比2.7%増)となりました。

動物用医薬品分野では主力製品の繁殖器官用製剤「セロトロピン」、「レジプロン」および昨年5月に上市いたしました牛用消炎鎮痛剤「メタカム」ならびに本年2月に上市いたしました豚・鶏用飼料添加剤「アイブロシン」を中心に販売努力をいたしましたが、売上高は11億1千3百万円(前連結会計年度比0.5%減)となりました。

そのほか、原料薬品、食品、医療機器、検査等の各分野におきましては、それぞれ市況の厳しさが続くなかで鋭意販売努力をいたしましたが、売上高は4億2千万円(前連結会計年度比54.1%減)となりました。

生産面におきましては、一層の生産の効率化に取り組み、安定供給、高品質の確保を目指すとともに計画に則した生産を順調に達成することができました。また、いわき工場新棟建設工事は、昨年4月の着工から順調に進み、本年3月末に予定どおり竣工することができ、平成22年4月に本稼動を目指しております。

研究開発面におきましては、更年期障害治療剤RPR106522(メノエイドコンビパッチ)の製造販売承認を平成20年10月16日付で取得しました。本剤は国内で初めて卵胞ホルモンと黄体ホルモンを1剤に配合した貼付剤であり, 合併後、当社として新薬第一号になります。また、hCG製剤ゴナトロピン5000(ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン製剤)におきましては、平成20年9月1日付で「低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症における精子形成の誘導」の効能追加の承認を取得しました。次期新製品につきましては、独創性の高い医薬品の開発に注力すると

営業の概況

ともに、パイプラインの充実を目的とした業務提携にも積極的に取り組んでおります。BNP7787（抗がん剤補助療法剤）は、追加フェーズⅢ試験の早期着手を目指しております。GPD－1116（慢性閉塞性肺疾患治療剤）は、昨年7月より欧州においてフェーズⅡ試験を開始しております。AKP－001（炎症性腸疾患治療剤）は、欧州におけるフェーズⅠ試験を終了し、フェーズⅡ試験の準備を進めます。BNP1350（抗がん剤）は、昨年4月より国内においてフェーズⅠ試験を開始しております。またAKP－002（排尿障害治療剤）は、昨年4月より欧州においてフェーズⅠ試験を実施しております。業務提携につきましては、昨年10月、株式会社そーせいと同社が開発しているSOH－075（緊急避妊薬）の日本における独占販売権に関する基本合意書を締結いたしました。

また、本年3月にはActavis社と後発医薬品を専門に販売する新会社設立に関する合弁契約を締結、本年4月1日にあすかActavis製薬株式会社を設立し、後発医薬品事業の拡大を目指してまいります。

当連結会計年度における設備投資額は42億4千8百万円（無形固定資産6億8千6百万円を含む）で、その内訳は主として生産工場統合に向けた、いわき工場新棟建設工事に係るものであります。

当連結会計年度においては、社債の発行、増資等による資金調達は行っておりません。

なお、当社は運転資金の効率的な調達を行うため、取引金融機関5行と総額40億円の特定融資枠契約を締結しておりますが、借入実行残高はありません。

今後の医薬品業界は、薬価基準の引き下げおよび後発医薬品の使用促進をはじめとする医療費抑制策の影響を受け、引き続き厳しい経営環境が予測されます。

当社は企業価値の最大化を図るため、組織・人事・制度面での改革を進めてまいりました。今後も改革を緩めず効率的経営に努めてまいります。また、新設子会社（あすかActavis製薬株式会社）の育成に全力を挙げて取り組みます。

生産面では、今年3月に予定どおりに竣工したいわき工場新棟の平成22年4月の本稼動を目指し、一連の生産設備のバリデーションを確実にやり遂げ、生産拠点の統合による新生産体制の構築に取り組んでまいります。

研究開発面では、現在臨床試験中の新薬の確実な開発の推進を目指します。また、導出入活動および事業提携戦略を積極的に展開していきます。

販売面では、医薬品分野につきましては、新MR支援システム構築を通じて医薬営業体制の強化と質の高い医薬情報活動、新上市品および販売提携等により売上高の増加を目指します。また、動物用医薬品分野につきましては、最重点品目の売上伸張と新製品の早期定着などにより売上高の増加を目指します。

費用面では、パイプラインの充実やステージアップにより研究開発投資の増加が予想されますが、効率的な使用や導出等により抑制し、低コスト経営、体質強化に努めてまいります。

内部統制に関しては、業務の有効性および効率性の向上、財務報告の信頼性の確保、業務活動に関わる法令の遵守、会社資産の保全・蓄積に向け、内部統制システムの強化に努めてまいります。

また、株主の皆様はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示するようIR活動を推進してまいる所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

連結財務諸表

■連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目＼期別	前連結会計年度 平成20年3月31日現在	当連結会計年度 平成21年3月31日現在
資産の部	**50,417**	**50,801**
流動資産	**28,053**	**25,372**
現金及び預金	5,701	5,034
受取手形及び売掛金	8,389	8,497
有価証券	8,080	4,840
その他	5,881	7,000
固定資産	**22,363**	**25,428**
有形固定資産	**12,127**	**14,781**
無形固定資産	**157**	**890**
投資その他の資産	**10,078**	**9,756**
投資有価証券	5,386	4,181
その他	4,691	5,575
資産合計	**50,417**	**50,801**
負債の部	**16,673**	**17,691**
流動負債	**7,333**	**8,569**
固定負債	**9,339**	**9,122**
純資産の部	**33,743**	**33,109**
株主資本	**33,681**	**33,884**
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	846	845
利益剰余金	33,939	34,145
自己株式	△ 2,302	△ 2,304
評価・換算差額等	**62**	**△ 774**
その他有価証券評価差額金	62	△ 774
負債純資産合計	**50,417**	**50,801**

■連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目＼期別	前連結会計年度 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	当連結会計年度 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	**30,170**	**30,422**
売上原価	10,168	11,241
売上総利益	**20,001**	**19,180**
返品調整引当金繰入額	△ 9	△ 0
差引売上総利益	**20,011**	**19,181**
販売費及び一般管理費	18,252	18,117
営業利益	**1,758**	**1,064**
営業外収益	494	410
営業外費用	210	96
経常利益	**2,042**	**1,377**
特別利益	4,771	222
特別損失	219	121
税金等調整前当期純利益	**6,594**	**1,479**
法人税、住民税及び事業税	1,507	677
法人税等調整額	1,573	201
当期純利益	**3,513**	**600**

■連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目＼期別	前連結会計年度 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	当連結会計年度 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	**6,014**	**△ 214**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**2,167**	**△ 2,247**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 4,226**	**△ 529**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△ 0**	**0**
現金及び現金同等物の増減額	**3,955**	**△ 2,991**
現金及び現金同等物の期首残高	**8,810**	**12,765**
現金及び現金同等物の期末残高	**12,765**	**9,774**

連結財務諸表

■連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

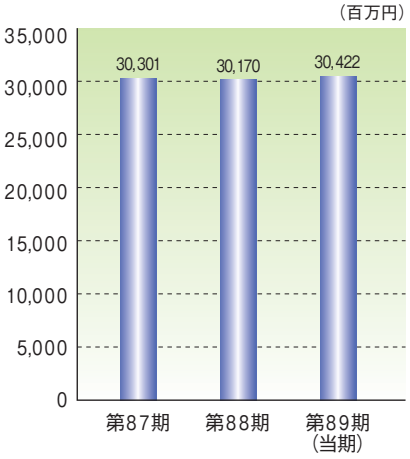
前連結会計年度 平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成19年3月31日　残高	1,197	846	30,849	△2,294	30,598	1,074	1,074	31,673
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△ 422		△ 422			△ 422
当期純利益			3,513		3,513			3,513
自己株式の取得				△ 8	△ 8			△ 8
自己株式の処分		△ 0		1	1			1
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△1,012	△1,012	△1,012
連結会計年度中の変動額合計	－	△ 0	3,090	△ 7	3,083	△1,012	△1,012	2,070
平成20年3月31日　残高	1,197	846	33,939	△2,302	33,681	62	62	33,743

（単位：百万円）

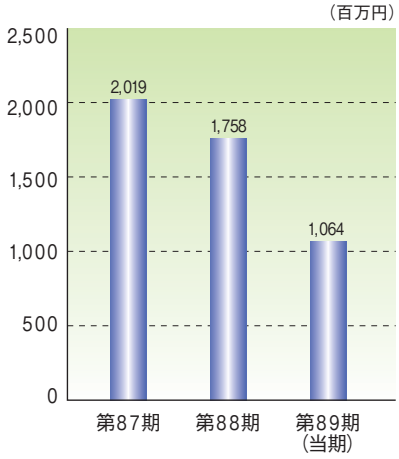
当連結会計年度 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成20年3月31日　残高	1,197	846	33,939	△2,302	33,681	62	62	33,743
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△ 394		△ 394			△ 394
当期純利益			600		600			600
自己株式の取得				△ 6	△ 6			△ 6
自己株式の処分		△ 1		5	4			4
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△ 837	△ 837	△ 837
連結会計年度中の変動額合計	－	△ 1	205	△ 1	202	△ 837	△ 837	△ 634
平成21年3月31日　残高	1,197	845	34,145	△2,304	33,884	△ 774	△ 774	33,109

業績の概況(連結)

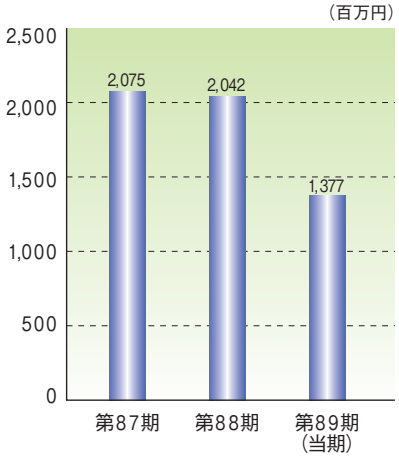
売上高



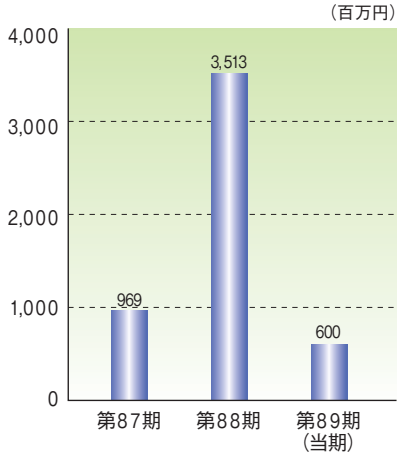
営業利益



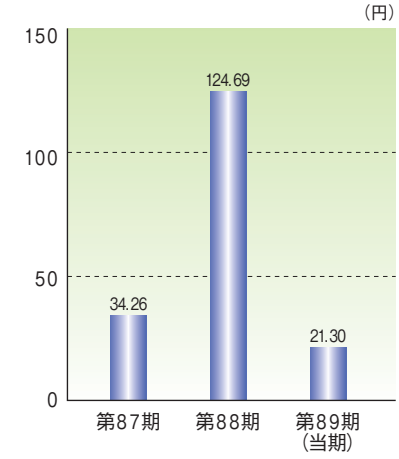
経常利益



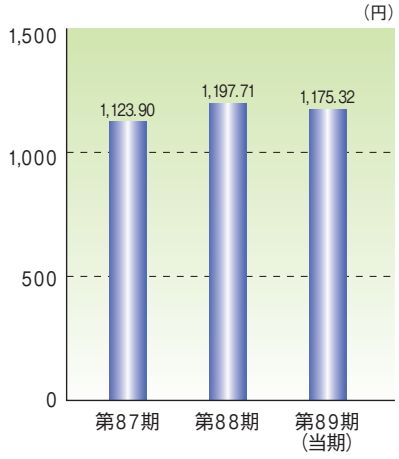
当期純利益



1株あたり当期純利益



1株あたり純資産額



(注)当連結会計年度末の自己資本比率は65.2%です。

トピックス

いわき工場第3製剤棟竣工

平成21年3月末、いわき工場に第3製剤棟が竣工いたしました。新棟は、地上4階建て、総床面積約11,800㎡、製剤の製造工場部分と製品・資材の保管倉庫部分からなっています。4階で顆粒を製造、3階で顆粒をカプセルに充填、1階でカプセルをＰＴＰ包装・個装箱詰・カートン箱詰まで行い、自動倉庫へ運ばれ出荷する流れになっています。建築・設備は3極GMP基準に対応するとともに、生産効率に配慮し、省力化が図られています。

今後、平成22年4月の本格生産稼動開始に向けて、各設備の適格性検査を約1年間かけて行い、より良い品質の製品を市場に送り出す準備を進めてまいります。


いわき工場第３製剤棟

「メノエイドコンビパッチ」新発売

平成21年2月5日、あすか製薬の「新薬第1号」となる更年期障害治療剤「メノエイドコンビパッチ」を新発売いたしました。本剤は、一枚の貼付剤に卵胞ホルモンと黄体ホルモンを含有した「国内初の配合貼付剤」であり、先生方から「待ち望んだ製品が発売された」と嬉しい声があがっています。本剤の育成によりホルモン補充療法の新たな開拓者としてのポジショニングを明確にしてまいります。



メノエイドコンビパッチ

ビカルタミド錠80mg「あすか」新発売

平成21年5月15日、前立腺癌治療剤「ビカルタミド錠」を新発売いたしました。本剤は、アストラゼネカ（株）の「カソデックス錠（年間売上高：約440億円）」の後発医薬品であり、今回15社が発売しています。本剤は1日1回1錠の服用で、前立腺癌に対し抗腫瘍作用を示します。抗男性ホルモンの前立腺肥大症・癌治療剤「プロスタール」と合わせラインナップが増えたことにより、泌尿器科領域の充実をさらに目指してまいります。


ビカルタミド錠80mg「あすか」

「アイブロシン」新発売

平成２１年２月２３日、豚・鶏用飼料添加剤「アイブロシンプラスー10」、「アイブロシンプラスー50」および鶏用飲水投与剤「アイブロシン水溶散」の３製品を新発売いたしました。効能は、「豚の流行性肺炎・慢性型増殖性腸炎」および「鶏の呼吸器性マイコプラズマ病」で、これらの病原菌に対して優れた殺菌および静菌作用を有する製剤で、動物用医薬品分野では大きな売上が期待できる製品です。



アイブロシン注射液

レバミピド錠100mg「あすか」製造承認取得

平成21年1月8日、胃炎・胃潰瘍治療剤「レバミピド錠」の製造承認を取得いたしました。本剤は、大塚製薬（株）の「ムコスタ錠」（年間売上高：約470億円）の後発医薬品であり、今回7社が薬価収載されました。1回1錠を1日3回服用することで胃の炎症を抑え、胃粘膜を修復して、胃潰瘍や胃炎を治します。早期の発売を目指してまいります。

あすか Actavis 製薬（株）設立

平成２１年４月１日、当社とActavis Group PTC ehfは合弁会社「あすかActavis製薬（株）」を設立いたしました。当社が55%出資し、資本金2億円、本店は当社本社内に置かれました。代表取締役社長には当社の代表取締役専務取締役の山口雅夫が就任、後発医薬品の開発、製造および販売を行います。今後、当社は経営ビジョンの「新薬開発型企業」として、新薬の開発と販売にさらに特化し、新たな治療に貢献してまいります。当社が販売してきた後発医薬品は、4重点領域（内科、泌尿器科、産婦人科および耳鼻科）に集中し、これ以外の後発医薬品はあすかActavis製薬（株）で販売し、平成27年度までには売上高100億円を目指します。


あすかアクタビス製薬（株）の山口雅夫社長と Actavis Group PTC ehf 社長兼 CEO の Sigurdur Oli Olafsson 氏

Actavis Group PTC ehf の概要
アイスランドに1956年設立。後発医薬品の開発、製造および販売に特化した世界第6位の後発医薬品企業。世界約40カ国に進出しており、売上高は約2,000億円で、その42%を中央・東ヨーロッパ、25%を北米で占めています。

主要製品

●医療用医薬品

内科（消化器・循環器・甲状腺）、泌尿器科、産婦人科領域、耳鼻咽喉科に品揃えを展開しています。



消化性潰瘍・胃炎治療剤
アルタットカプセル37.5・75



高脂血症治療剤
リピディルカプセル67・100



甲状腺機能低下症治療剤
チラーヂンS錠25・50・100



前立腺肥大症・癌治療剤
プロスタール錠25
徐放性前立腺肥大症治療剤
プロスタールL錠



更年期障害治療剤
メノエイドコンビパッチ



定量噴霧式鼻過敏症治療剤
ミリカレット点鼻用50μg

●一般用医薬品



解熱鎮痛剤
グレラン・ビット



筋緊張改善剤
ドキシン錠

●健康食品



美容健康食品
植物プラセンタASKA



健康補助食品
グルコサミンASKA

●動物用医薬品



注射用血清性性腺刺激ホルモン
動物用セロトロピン



犬前立腺肥大症治療剤
ウロエース錠

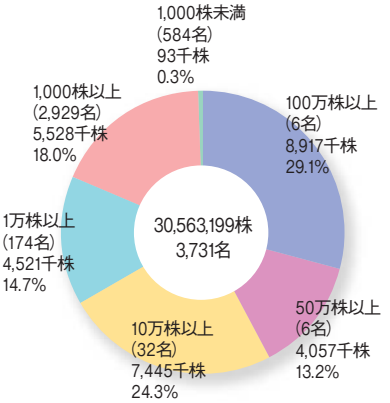
株式の概況
（平成21年3月31日現在）

●株式の状況

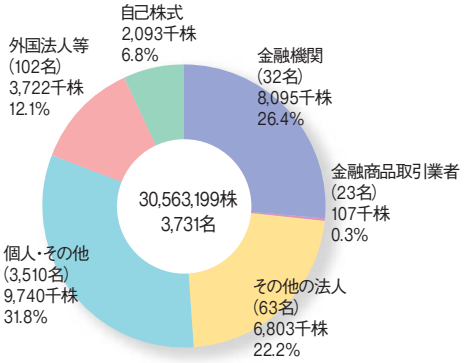
発行済株式の総数	30,563,199株
株主数	3,731名

●株式の分布

【所有株数別】



【所有者別】



●大株主の状況（上位10位）

株主名	所有株数（千株）	持株比率（%）
武田薬品工業株式会社	2,204	7.2
株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行	1,398	4.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,147	3.7
山口隆	1,060	3.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,013	3.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4G）	957	3.1
長瀬産業株式会社	850	2.7
あすか製薬従業員持株会	670	2.1
日本生命保険相互会社	579	1.8
トーア再保険株式会社	500	1.6
ビービーエイチ ボストン ハートランド バリュー ファンド インク	500	1.6

（注）1．千株未満は切り捨てて表示しております。
2．持株比率は小数第2位を切り捨てて表示しております。
3．当社は自己株式2,093千株を保有しております。

会社の概要

（平成21年3月31日現在）

社　　名	あすか製薬株式会社
設　　立	昭和4年6月28日 （創立　大正9年6月16日）
資 本 金	11億9,790万円
主な事業内容	医薬品、動物用医薬品、医薬部外品、 食品および医療機器等の製造・販売ならびに 輸出入
主な事業所	
本　　社	東京都港区芝浦二丁目5番1号
事 業 所	川崎事業所（神奈川県川崎市） 西東京事業所（東京都羽村市）
工　　場	いわき工場（福島県いわき市） 西東京工場（東京都羽村市）
支　　店	札幌支店、東北支店、東京支店、千葉・埼玉支店、横浜支店、北関東支店、甲信越支店、名古屋支店、京都支店、大阪支店、中国・四国支店、福岡支店
従業員数	1,005名 （子会社への出向者21名は含めておりません）

役　　員

（平成21年6月26日現在）

役　　員	代表取締役社長	山口　隆
	代表取締役専務取締役	山口雅夫
	専務取締役	金澤　一
	常務取締役	大竹　充
	取締役常務執行役員	萬矢裕俊
	取締役常務執行役員	堀内　敏
	取締役常務執行役員	内藤　朗
	取締役	上田栄治
	常勤監査役	辻　憲三
	常勤監査役	鈴木　肇
	監査役	武田裕二
	監査役	増田由明
執行役員	常務執行役員 特命事項担当	杉本隆雄
	常務執行役員 人材開発センター・総務部・人事部・法務広報部担当	横山義廣
	執行役員 監査室・信頼性保証本部担当	才田　修
	執行役員 アニマルヘルス担当	應矢誠司
	執行役員 西東京事業所長兼創薬研究センター長	青塚知士
	執行役員 特命事項担当	長谷川憲一
	執行役員 いわき工場長	角張信隆
	執行役員 特命事項担当	秋山　明

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL. 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告掲載紙	日本経済新聞

お知らせ

1. 株券電子化によるご注意

⑴ 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

⑵ 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。

⑶ 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は今回から同封を取りやめております。振込指定のお手続きにつきましては、詳しくは各口座管理機関にお問い合わせください。

⑷ 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2. 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

あすか製薬株式会社

本　社　〒108-8532　東京都港区芝浦二丁目5番1号
TEL. 03(5484)8361(代)　FAX. 03(5484)8351
http://www.aska-pharma.co.jp/

PRINTED WITH SOYINK™
本誌は大豆油インキで印刷しています。